



平成 24 年 8 月 10 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 松 井 政 彦
(J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 小 崎 隆 司
電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

平成 25 年 3 月期第 1 四半期の連結業績見通しおよび特別損失の計上に関するお知らせ

平成 25 年 3 月期第 1 四半期累計期間（平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日）の連結業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 25 年 3 月期第 1 四半期累計期間の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前年同期実績 (平成 24 年 3 月期第 1 四半期累計期間) (A)	1,239	△401	△360	△402
当期実績見込み (平成 25 年 3 月期第 1 四半期累計期間) (B)	1,271	△32	8	△54
増 減 額 (B - A)	32	369	368	348
増 減 率 (%)	2.6	—	—	—
(ご参考) 平成 24 年 3 月期実績	5,073	△1,231	△1,234	△2,579

2. 差異が生じた理由

当第 1 四半期連結累計期間におけるわが国経済は、震災復興関連を中心に公共投資が増加し、企業収益の改善とともに設備投資も増加基調となり、生産や輸出にも持ち直しの動きが見られました。雇用情勢には厳しさが残るものの、個人消費は緩やかに増加するなど、内需の堅調が下支えとなりました。

商品市況は、新興国の成長減速を背景に原油価格が軟化し、金を中心として貴金属は横ばい推移となる一方、供給面の問題から逼迫感の強まった穀物市場は上昇し、全国市場売買高は 12,900 千枚(前年同期比 82.4%)となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料は 1,002 百万円(前年同期比 92.2%)となりましたが、売買損益は石油市場におけるディーリングが好調だったこともあり、147 百万円の利益(前年同期は 11 百万円の利益)となりました。

この結果、営業収益は 1,271 百万円(前年同期比 102.6%)となる見込みであります。また、営業費用につきましては経費削減効果により 1,304 百万円(前年同期比 79.4%)となる見込みであります。これらにより、営業損失は 32 百万円(前年同期は 401 百万円の営業損失)、経常利益は 8 百万円(前年同期は 360 百万円の経常損失)をそれぞれ計上する見込みであります。

これに加えて、投融資先の財政状態および担保評価を厳格に精査した結果、財務の健全性の観点から、貸倒引当金繰入額 17 百万円を特別損失として計上したことなどから、四半期純損失は 54 百万円(前年同期は 402 百万円の四半期純損失)となる見込みであります。

以 上